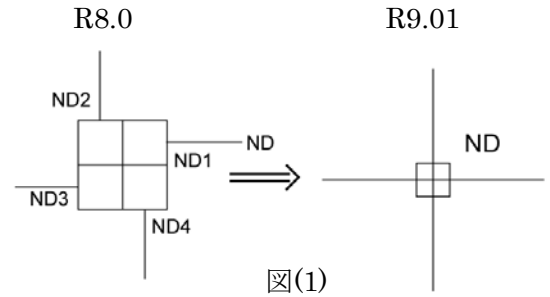


骨計測

R9.01 主な改良項目、バグ修正点

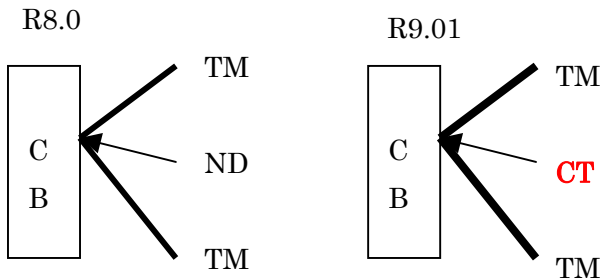
骨計測の結果が変わってくる修正。

- 1) 海綿骨塊から4方向に伸びる海綿骨の扱いを修正
それぞれの海綿骨枝端点は ND となっていました
ND4 個を ND1 個に統合。
従って ND の個数が減少します。



- 2) Ct 点の発生法の修正

皮質骨表面に皮質骨に接して海綿骨が存在した場合、皮質骨表面の点を ND と認識して
いました。これを Ct と認識するように修正。従って ND が減少し、Ct が増えます

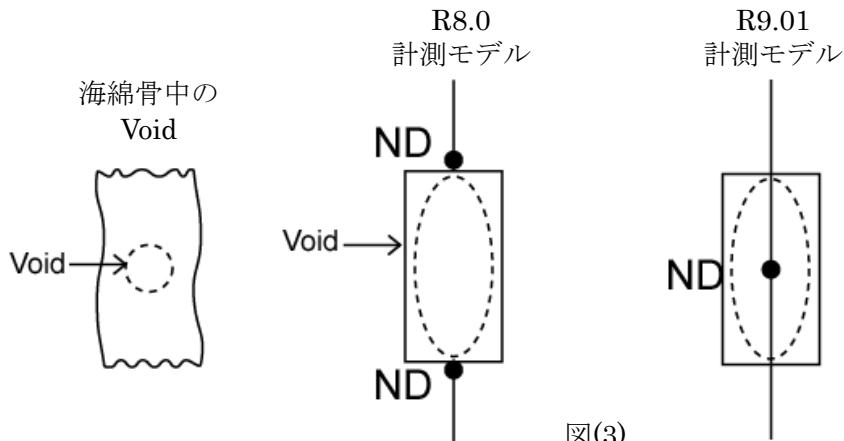


図(2)

- 3) 海綿骨内の閉じた Void の扱い

従来は Void 端点は ND とし、Void 自体は計測対象から除外していました。Ver.9.01 より
Void 中心に 1VoidND を設けました。その結果 Void1 個につき ND の個数が 1 個減少し、
Void 幅サイズだけ TSL が増加します。

ほとんどあり得ないことと思いますが、骨抽出において骨の中の多数の空となる黒いノ
イズが入っていた場合、ND 数や TSL は大きく変化致します。



図(3)